

令和 7 年度 県立水戸南高等学校通信制課程 通信教育連携協力施設自己評価表 (下妻第一高等学校)

目指す 学校像	「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心豊かな学びを実現する。	
三つの方針	具体的目標	
「三つの 方針」(ス クール・ポ リシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 【本校の通信制課程は、1951年の創立以来、茨城県内唯一の県立通信制課程として、生徒一人一人のニーズや生活スタイルを尊重し、生徒と教員が、「これからの生活に必要なこと」を共に考え、それを実現することが使命であると考えています。】 ○「個別最適化された学び」 様々な背景を持つ一人一人の生徒が、多様な能力・適性、興味・関心に応じた学びを実現できるようにします。 ○一人一人の可能性の開花と、セルフケア力の向上 教員は、“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び覚まし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導きます。 ○「誰かに必要なことはみんなの快適」 個々の生活体験や学びから得られた知を、ユニバーサルデザインの視点に昇華させ、そこから生まれる安心感を、共に学ぶすべての人が共有していきます。 ○世の中の「とくべつ」とされていることは「本校では当たり前」 本校を取り巻くすべての人が、学校本来の大切さを日々実感できる学校でありたいと考えています。良いものを良いと感じられ、当たり前のことを当たり前に思うことのできる人、今は未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、互いを大切にできる人を育てます。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 【本校では、全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される“水戸南カリキュラム”を編成します。】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」 単位制本来の特色を最大限に活かすことを第一に考え、学びの積み重ねによって3年間での卒業が十分できるよう、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にします。 ○「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」 「まだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけ、より深く学ぼうとする意識を高めていきます。 ○誰もが必要とする基礎・基本の学びの導入 義務教育の9年間では、誰もが苦手と感じる分野を持っています。本校では、高校での学びへの移行をスムーズにできるようにしています。また、スクーリング・レポート・考査の3つの柱に加え、ICTを活用することによってスクーリングの効果を高め、レポートの助けになるような教材を発信するようにします。

別紙様式 2 (高)

	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【本校は、「これから」の気持ちを応援する学校として、「今、学びたい」という気持ちを尊重し、学び続けていくことの楽しさを習得する意欲をもった生徒の受入れを行います。】 ○居住地や生活スタイルに合わせた通学方法で学びをサポートします。 通信制において、月2回のスクーリングは、日曜コース、火曜コースを設定しています。また、下妻コース(日曜日実施)を選択することもできます。 ○「学びに対する好奇心」をもつ生徒を受け入れます。 レポートの作成やスクーリングを通して、“自分にはできない”とあきらめず、これまで困難を乗り越えてきたことも自信に変え、何度でも立ち上がれる人になることを目指します。学びの中で、世界の成り立ちを知ることの喜びに気付くとともに、自分にプラスをもたらす人との出会いを通して、自分の強みを知り、高校時代に第一歩を踏み出してもらいたいと考えます。 ○「学びをセルフプロデュースできる生徒」を育てます。 進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高の特色です。外見を校則でしばられない自由さの中で、自立・自律の能力を磨くことを目指し、自分の目標と今の自分がどう違っているかを見て、自分で修正できる力を身に付けていきましょう。
--	-----------------------------------	--

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・教職員の丁寧な添削指導や生徒一人一人に寄り添った指導を行っている。令和2、3年度の単位修得率は 60%を超えたが令和4年度は 58.3%、5年度は 59.1%と 60%を下回った。 ・多くの学校行事や生徒会主催行事が中止や開催形態の変更を余儀なくされた中、全職員の協力により柔軟に対応し、教育的効果を上げることができた。学校行事の企画と効果的な支援を目指していく。 ・県内唯一の通信制設置の県立高校として地域への広報活動を広げたが、今後は学校訪問等の機会を増やし、さらなる周知を行う。 ・ICT 機器が整備されつつあることから、スクーリング、職員打合せ等での ICT 機器の活用を図っていく。	・学習指導のさらなる充実	・自己管理能力を育み、自学自習の習慣を身に付けさせるような、丁寧で的確な添削指導を行う。 ・スクーリングにおけるICT機器の活用を推進する。 ・生徒の単位認定に至るまでの学習活動におけるICT化の可能性について検討を進める。	B
	・生徒の社会性の向上	・多様な学校行事を企画し、多くの生徒の参加を促す。このことを通して、個々の生徒の持つ特性を活性化させるとともに、他の生徒との交流を深めさせることにより、社会性を育成する。 ・外部機関が主催する行事や大会、ボランティア活動への参加を促し、コミュニケーション能力の育成を図る。	A
	・保護者、家庭との連携強化	・月1回発行する「南通信」を通して、通信制課程の教育活動や学習の取り組み方法を周知する。 ・「学校ホームページ」「メール配信」などで、随時情報発信を行い保護者、家庭との連携を強化する。	B
	・教職員の資質向上 (授業改善への取り組み)	・全国及び関東地区の通信制教育研究会の研修会への参加を促し、通信制教育の意義や各校の指導方法を学び授業改善に取り組む。 ・「生徒による授業評価」の観点のひとつである授業満足度に係る評定平均値について、中間評価 2.6 以上、最終評価 2.8 以上を目指す。	A
	・学校運営の効率化 (働き方改革)	・教育情報ネットワークの classroom 等を利用し、会議等を効率的に行うなど、働き方改革を進める。 ・利便性の高い統一フォーマットを作成し、業務の見直しや改善を図る。 ・PDCAサイクルを確立し、教員業務の見直しと業務改善の推進を図る。	A
	・広報活動のさらなる充実 (地域との連携強化)	・ホームページやメール等の情報発信機能を充実させ、県立高校通信制としての教育活動を広く地域に周知する。 ・中学校、高等学校を訪問して情報提供を積極的に行い、「学びのセーフティネット」としての役割を周知する。 ・就業者など地域の方々にも広く周知し、学業継続を希望する生徒を広く受け入れる。	B

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	・日本語運用の知識・技能を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ・古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ・小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。	・国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成するため、ICT機器等を活用し、充実したスクーリング指導を行う。	A	A	・ICT 機器の有効活用について、今後も引き続き努力をする。 ・指導と評価の一体化による効果的な指導について、継続的に工夫改善を図っていく。 ・視聴票の活用等を含めた教材の充実を図っていく。
		・主体的に学習に取り組む態度を育成するため、教材やレポートのさらなる改善を図る。また、生徒の実態を考慮し、教材や授業展開の工夫・改善に心掛ける。	A		
		・作文や読書感想文などの創作活動を通して自己の内面を探り、自分自身と向かい合うことで自己実現への契機となるよう、きめ細かな添削指導をする。	A		
		・レポートにおいて定期的且つ継続的な漢字指導を行う。	B		
		・実社会に必要な国語の知識をレポートとスクーリングを通して身に付けさせる。	B		
地歴	・激しく変動する世界を正しく公平に理解させることに努める。	・スクーリング終了時に、指導内容を考察・改善し、次のスクーリングに生かす。	A	A	・ICT 機器をさらに有効活用できるよう今後も努力する。 ・スクーリング内容を精選し世界の諸問題を深く考えさせる。
		・生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。電子黒板等のICT機器を利用して、授業改善を図る。	B		
		・激しく変動する世界にあって、さまざまな情報源から、生きた世界の姿を正しく理解させるとともに、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる教養を育てる。	A		
公民	・現代の社会をよく見つめ、正しく公平に理解させることに努める。	・スクーリング終了時に、指導内容を考察・改善し、次のスクーリングに生かす。	A	A	・現代社会の様々な問題を深く理解させるため ICT 機器も有効活用する。 ・スクーリングでは時事的な内容も精選し、興味関心を惹起させたい。
		・生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。電子黒板等のICT機器を利用して、授業改善を図る。	B		
		・激しく変動する世界に対応するため、あらゆるメディアを利用して、現代社会の姿を正しく理解させるとともに、グローバルな視野に立って、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる心と教養を育てる。	A		
数学	・基礎学力の定着を図る。 ・分かる喜びをより多く実感できるようにする。	・基礎事項の理解に重点を置いた分かり易いレポートとなるよう、更なる改善を図る。	A	A	・基礎事項の理解を深めるためのレポートを作成する。 ・補助資料は教科統一のものを作成する。 ・効果的な I C T の活用について検討を深める。 ・観点別評価の定期的な確認を実施する。
		・基礎事項の理解に重点を置いた丁寧なレポート添削を行う。	A		
		・面接(スクーリング)では、家庭でのレポート作成ができるよう補助資料を提示する。また、理解を深めるためICTの効果的な活用を図る。	A		
		・必修修科目(数学Ⅰ)の単位修得者数を向上させるべく、生徒各人に必要な声かけやアドバイスを実施する。	B		
		・より生徒の実態に合わせた教育課程のレポートを作成していく。	A		
		・より良い観点別評価の確認と見直しを行っていく。	B		
理科	・実験や実習・観察などを通して、理科のおもしろさを実感させ、興味・関心をもって学べるように努める。 ・自宅学習を充実させ、基礎的知識を定着させる。	・実験や観察の機会を増やし、実物や現象に直接ふれることができるように努める。	A	A	・デジタルレポートの運用を拡大する。
		・理科を楽しみながら学べるように、実験や実習について、さらに工夫・改善に努める。	A		
		・視聴覚教材やプリントなどの利用やICTの活用により、生徒が理解しやすいように、興味を持ってスクーリングに臨めるように努める。	A		
		・レポート添削指導やサポートの方法について効率化に努める。	A		
		・教員間での情報・教材・資料の共有を図る。	B		

別紙様式2 (高)

保健 体育	- 運動の実践を通して、計画的に運動を楽しむ習慣を育て、生涯体育の基礎を養う。 - 健康や安全の理解を深めるとともに、健康を高める能力や態度を育てる。	各種の運動の合理的な実践を通して、一人ひとりの身体能力や個性を尊重した指導を行い、思考力・判断力・表現力を養い、生涯を通じて運動に親しめる能力や態度を養う。スクーリングでICTを活用し生徒の興味関心を促す。	B	B	ICT機器を活用し活動の質を高められるように援助していく。
		- レポート添削を中心とした学習において、運動や健康・安全についての知識及び理解を深めさせ、学びに向かう力、人間性等が高まるよう、主体的・対話的で深い学びができる能力や態度を養う。インターネットなどを利用し、レポート学習の深化が図れるように指導する。 - 他校(通信制高校)の先進的な体育スクーリングを参考に改善を図る。	B		インターネットを活用して作成したレポートについて今後も丁寧に添削していく
芸術	- 芸術各科の基礎知識、用具等の扱いを習得させる。 - 創作の喜びや鑑賞の楽しみを実感し、生涯にわたって芸術に親しむ心情を養う。	スクーリングは、各種道具や表現方法などを説明し、実技指導を工夫する。また、ICTを活用した鑑賞等についても検討を進める。	B	A	課題については、提出されたものの応答状況を点検し、適切なものとなるように、再検討をするとともに、引き続き丁寧な添削につとめていく。
		レポートは、生徒が主体的に取り組める内容を厳選し、個に応じた添削指導に努める。	A		
		テストは、スクーリングやレポート内容を反映させるものとし、個に応じて支援する。	B		
外国語 (英語)	- 英語でのコミュニケーション能力の伸長に努める - レポート作成に参考になる指導をするよう努める。	単語や英文の音に親しませるような指導に努める。日常生活における英語を認識させ、簡単な英語を使えるようになる授業の展開に努める。	A	A	- スクーリングにおける ICT 機器活用を推進し、基礎英語力の伸長を目指す。 - 生徒一人一人の個性、能力に応じた細やかなレポート添削に努める。
		スクーリングにおいて、レポートの内容について指導するとともに、ICTを活用し、より理解しやすい授業の改善に努める。	B		
		生徒一人ひとりに応じた添削指導やサポートの方法の改善に努める。	A		
家庭	- 基礎的、基本的な知識・技術を習得させる。 - 家庭生活の重要性を実感させる。	きめ細やかなレポート添削を行う。	A	A	- ホームプロジェクトを通して、自分の生活を改善できる力を養う指導を行う。 - 生活能力が高まるように生活の基礎・基本を指導する。
		生徒ひとりひとりの技術に応じた実技指導を実施する。	A		
		ICT 機器を積極的に使い、視覚的に授業時間や内容を提示することで、授業への理解度を高める。	A		
		ホームプロジェクトを通して、生活者としての自立を目指す学習を充実させる。	B		
		実験・実習の体験を通して日常生活をよりよくしていこうとする意欲を高める。	A		
商業	ビジネス教育における基礎的・基本的な知識・技能の習得の向上に努める。	自学自習に対応する補助プリントの作成とレポート内容の精選に努める。	A	A	電子黒板と黒板への板書を併用して効率よく活用する。レポート内容を精選し、教科書に記載されている現在にあった用語を取り入れる。
		スクーリングにおいて、講義内容および補助プリントを充実させるとともに、電子黒板などのICT機器を活用した授業効率化や授業改善を図る。	A		
		個に応じた添削指導に努める。	A		
		資格取得やビジネススキルアップを支援する。	B		
情報	ネットワーク、端末、コンテンツ等を正しく利用できるようにする。	Google Workspace を活用し、実社会と結び付く授業を目指した改善を行う。	A	A	ICT機器の操作だけでなく、プログラミング実習をさらに充実させ、思考力を高める授業を展開する。
		基礎的・基本的な用語を学習するとともに、プログラミング的思考を身に付けるようにする。	A		
		簡単なパソコン操作やネットワークの適切な利用ができるようにする。	A		
		スマートフォンの利便性と危険性や、その他情報モラルに関して指導する。	B		

別紙様式 2 (高)

教務	・生徒一人一人がそれぞれの目標を達成できるように学校の運営に取り組む。 ・生徒が自分の進路に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。 ・各部・委員会との連携を図り、円滑な学校運営に努める。	・インターネットなどを利用した情報提供の在り方について研修を図る。	A	A	校務支援システム切り替えへの組織的対応を計画的に準備する。 I C T活用を、校務・状況提供・学習活動の3点を中心に研究する。
		・時間割を工夫し、生徒が効率よくスクーリングに出席できるようにする。	A		
		・試験の実施方法やその時期を検討し、無理なく受験できる環境を整え、合格率の向上を目指す。	A		
		・新学習指導要領についての研修を深め、学校の特色にあった教育課程の編成に取り組む。	B		
		・生徒の希望が十分に反映された科目履修が実現できるような履修指導の時期や方法を考案する。	A		
		・校務支援システムの機能の見直しと強化を進め、事務処理の効率化を図る。	A		
		・学習指導部と連携して、レポート提出率及び単位修得率の向上を図る。	A		
学習指導	・基礎学力を定着させ単位修得率を向上させる。 ・自学自習の支援を図る。 ・生徒の進路目標の達成を図る。	・ I C T教育の活用を研究する。	B	A	自学自習への支援を通じて単位修得率の向上を目指すとともにより多くの生徒の進路実現ができるように支援を行う。
		・ 教具・教材などの学習環境の整備と充実に努める。レポート改善を促進する。	A		
		・ 生徒に「南通信」の有効活用を促す。	B		
		・ N H K高校講座の視聴を奨励し、自学自習の習慣化を定着させ単位修得率向上を図る。	B		
		・ 図書内容の充実と利用の促進を図る。	B		
生徒支援	・校内全面禁煙の徹底を図る。 ・公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。 ・思いやりのある心の育成を図る。 ・本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・ 個々の生徒の進路相談を充実させるために、進路関係の情報提供に努める。	A	A	・今年度も職員の協力のもと見回りをしっかり行ったため校内での事件事故の件数を少なくすることができた。
		・ 全学年の先生の協力を得て、スクーリングの巡回指導、校内放送等により、喫煙を減らし、生徒間のトラブルを未然に防ぐ。	A		
		・ H R 等を利用し、薬物の危険性・有害情報の提供、交通マナーなどを随時指導していく。	B		
		・ 他人が受ける心の痛みを理解するとともに、自主性のある行動がとれるよう指導していく。	A		
		・ 多くの行事を通じて、豊かな人間性の育成を図る。	A		
		・ 生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。	A		
		・ 保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。	A		
		・ いじめ発生の際には、警察署と連携を取りながら、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。	A		
		・ 保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。	A		
保健	・心身の健康と自己管理能力の育成を図る。 ・環境美化意識の向上を図る。 ・健康・安全に対する知識の	・ 情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	B	A	・健康や安全などについて「水戸南通信」やH R 過活動を通して指導を行う。 ・疾病のある生徒は養護教諭や関係職員・地域と連
		・ H R や「水戸南通信」を通して、健康維持・安全および衛生面についての生徒の意識を高める援助を行う。この際、I C Tを活用した資料提供も検討する。	A		
		・ 学校検診を受診することで、自己の心身の状態を把握することの重要性を認識させる。	A		
		・ 持病や精神面の相談のある生徒については、担任をはじめ関係職員(学校医やスクールカウンセラー)の共通理解のもとに指導に当たる。	A		

別紙様式 2 (高)

保健	育成を図る。	・スクーリング時に、3才以上の幼児を持つ生徒の援助となるよう託児室を運営する。	B		携をはかり、適切な支援をする。 ・託児室や教室などの整備に努める。
		・校内の清掃などを通して、公共の場における美化意識の向上を図る。	A		
		・HR や「水戸南通信」を通し、登校時の緊急時に対応が出来るよう啓発する。	A		
		・災害時備蓄品の管理を、定時制・事務と一緒に行う。	A		
渉外	・生徒募集のための広報活動を充実させる。 ・同窓会活動の維持に努める。	・学校案内パンフレット、ポスター等の内容をより充実させるための工夫・努力する。	A	A	ポスター作成方法を見直す。 新入生アンケートのデータを活用し、広報骨同に活かす。
		・広報活動の情報をネットワーク上にアップし、アドレスを周知する方法に移行する。	A		
		・通信制同窓会の活動の維持に努める。	A		
		・定通教育振興会の運営の活発化に努める。	B		
第1年次	・基本的な生活習慣と学習態度の確立 ・学習への自発的な喚起を促す指導 ・多様な生徒への対応と指導の充実	・高校生としてふさわしい行動がとれるよう指導する。	A	A	・様々な家庭・社会環境にいる生徒たちへの適切な対応。 ・進学、就職希望者への進路指導の充実。
		・通信制のシステムをICT活用した資料などで丁寧に説明し、自ら考え行動できるよう促す。			
		・各生徒に対応した個別指導を行い、学習への興味を喚起させる指導を意識する。	B		
		・生徒一人一人の状況をできる限り把握し、個々の生徒に応じた対応を心がける。	A		
第2年次	・個別指導の拡充による単位修得率の向上 ・生徒一人ひとりの生活環境に応じた生徒理解 ・学校行事への積極的参加	・昨年度の学習状況を踏まえ、適切な助言を行い、個々のレポート提出率、スクーリング出席率を向上させ、延いては単位修得率の向上を目指す。	A	A	・不適応や問題を抱える生徒への適切な指導と対応。必要に応じ、SSW の支援要請。 ・進学・就職希望者への進路指導の充実。
		・問題を抱える生徒や学習活動が不活発な生徒について、情報を収集し、生徒理解に努めるとともに、関係する分掌・委員会との連携を図り、適切な対応を心掛ける。	B		
		・生徒総会・遠足・バザー・校内生活体験発表等の行事への参加を促す。	A		
第3年次	・生徒理解のための連携強化 ・学習の定着化による単位修得率の向上 ・三卒希望者の卒業達成支援	・問題のある生徒については、学年全体で共有すると共に、各校務分掌と連携・協力しながら、管理職の指示のもと事にあたる。	A	A	・生徒の実態に即した学習指導および進路指導の更なる充実。 ・各種学校行事への積極的な参加を促し、学校生活を確固たるものとするよう導く。
		・個々の生徒に応じた指導・助言に心がけ、スクーリングの出席率・レポートの提出率を向上させ、単位修得に向上に努める。	A		
		・8年ぶりとなる修学旅行を実現させると共に成功に導く。	A		
		・三卒者に向けては、進路目標実現のために積極的な支援を行う。	B		
第4年次	・単位修得率の向上及び卒業達成の支援 ・生徒とのコミュニケーションの拡充 ・進路指導の充実	・個々の生徒に応じた履修計画の作成、指導により、単位修得率の向上を図る。 ・卒業希望者については、具体的に自分の将来像を意識させ、卒業達成率 50%を目指す。 ・単位未修得者に対しては、漸進的な単位修得の指導を行う。	A	A	・生徒の実態に即した進路指導の充実。 ・問題を抱える生徒に対してのSC やSSW による支援の充実。 ・単位未修得者への指導方法の改善。
		・生徒とのコミュニケーションを図ることによって、生徒の現状や抱える課題を探り、個別指導に役立てる。	A		
		・生徒個々の進路希望に合わせて適切な助言を行い、生徒の自己実現を手助けする。			
		・進路指導担当者との緊密な連携により、生徒への資料・情報の提供に努める。	A		

※ 評価規準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない